第１１回平成２７年度第４回　豊川市子ども・子育て会議　会議録（要約）

平成２８年３月２４日(金)
午後１時３０分～午後４時
豊川市中央図書館　集会室

１　あいさつ

白垣会長によるあいさつ
（略）

３　議事

(1) 子ども・子育て支援事業の進捗状況について

【事務局説明の後、主な委員の質疑・意見及び事務局回答・説明】

・資料 1-1 p.1 のところで、「３号認定について、利用希望者の 92 名が辞退」とあるが、どういう方が辞退されるのか。

（事務局）申込時に第３希望まで書いていただき、申込多数の場合、優先度の低い方は第２希望、第３希望の園をご案内する。その場合、第１希望でなければ辞退される方がいる。また、転居などの理由により、辞退される方も結構いる。

（事務局）補足だが、全国的に保育園の待機児童問題が話題になっている。本市の場合、先ほど説明した「第２、第３希望なら辞退する。」という、それほど深刻でない方も多い。これは、早めに申し込まないと後々入れないのではないか、というように考えておられる可能性がある。また、"就労予定"として申し込まれた方が、結果的にお仕事に就けなかっただとか、いろんな事情がある。市全体で見ると、地域によりニーズ量に偏りが見られる。この資料で見ると、平成 27 年度の０歳児の実際の利用者数が 84 名となっているが、平成 28 年度は 120 を超える数字となっている。これらに対応するために、牛久保保育園の改修を行ったり、小規模保育園の開設が行われたりしている。今後もなるべく受入れをしていくように進めている。

・資料 1-1 p.2 のところで「時間外保育について、南部は延長保育を実施している民間保育園等もあり充実している。」という説明だったが、それで 155%という結果が出ているのはなぜか？

（事務局）確保方策と乖離があるが、実際にはその園に入っているお子さんを延長してお預かりするということで、施設的には問題無く、スタッフの確保の必要はあるが、基本的には全て受入れできている。

・資料 1-1 p.3 のところで、放課後児童クラブで待機児童が出ているとのことだが、ずいぶん前から小学校の中に拡充するという話になっているはずだが、その進捗状況はどうなのか。

（事務局）八南は、平成 28 年度から小学校の中を利用させていただくことになっている。豊については、申込状況を踏まえてそれよりも緊急度の高い代田にクラブを増設することにして、同じく小学校の中を利用させていただくことになっている。

・利用者数については、潜在的なニーズを反映していないので、今後さらに増えてくる可能性はあるということで良いか。

（事務局）可能性はある。児童クラブの利用者数は、予測を立てにくい。際限なく拡充していくわけにもいかない。確実に拡充はしていくが、余裕を持った対応はできない。

・資料 1-1 p.4 のところで、子育て短期支援事業は広く多くの方が使っているのか、特定の方が使っているのか。

（事務局）中には繰り返し使われる方や、お子さん全員で使われる方もいる。そうなると、実績上は、家族は少なくても数字は伸びる。なので、人数や日数で問われると、そのときどきで異なる。

・計画上のニーズは、今後も 80 人日のままとするのか？

（事務局）希望者については、基本的に全て受け入れていく。人数については、年度によって上がったり下がったりするので、このままとして推移を見守りたい。

・放課後児童クラブは全体としては 93%ということで、ほぼ妥当な結果であるにもかかわらず、計画を変更しようとしている。それと対応が違うのはなぜか。

（事務局）放課後児童クラブは、全体としては良くても、実際には小学校区単位で対応していかねばならない。そのため、計画の変更に当たっては、小学校ごとに計画を細分化する予定でいる。

・放課後児童クラブは、計画上は４つの区域に分けていたが、そうではなく更に細分化した計画にするということか。

（事務局）そのとおり。

・資料 1-1 p.4 のところで、地域子育て支援拠点事業について、こざかい児童館は広いという利点があるが、０～２歳児の母親からは、「もっと魅力があっても良いのでは。」という話を聞いたことがある。何がいいかよく分からないが、豊橋のミナクルという施設に行ったら、いろんな年齢層の方が利用していた。なので、もっと工夫の余地があるのでは、と思う。

・こざかい児童館は、小学生にとっては、とても利用しやすい施設になっている。よく工夫をされている。ただ、小学生が利用しやすいからこそ、０～２歳児にとっては利用しにくいかもしれない。難しい問題だと思う。

（事務局）児童館は、18 歳未満の方が利用される施設である。０～２歳児でも、小学生でも、中高生でも利用しやすい施設にしなければならない。ただ、それだけ年齢差があると、どこにターゲットを持つかということもある。ただ、多くの方に利用されるよう、工夫を考えていきたい。

・計画上の数値は、実際の利用者ではなく、使ってみたいというニーズから出したものだ。それからすると、よくニーズの半分程度は実際に使ってくれたという見方もある。ここはアイデアの出しどころだと思う。

・資料 1-1 p.5 のところで、保育所の一時預かり事業について、増えているというのは、計画どおりなのか、計画を上回っているのか。

（事務局）計画よりも増えている。

・資料 1-1 p.5 のところで、病児・病後児保育事業について、増やすのは予定どおり平成 29 年度か。

（事務局）平成 29 年 4 月開設は難しいが、早めに開設が出来るように今動いている。ニーズとしては、年間通じてというよりも、インフルエンザの時期に集中する部分もあるので、そういったことも踏まえて

考えていく。

・インフルエンザの時期など、お断りしたケースはあるのか。

（事務局）そういったケースは考えられる。

・資料 1-2 p.1 のところで、相談事業について、保健センターの相談件数が減っているが、保育園に入園する時期が早まっていることから、保育園のほうに相談しているということは考えられるか？

（事務局）可能性としては考えられるが、そこまでの分析が出来ておらず、正確には分からない。

（事務局）保健センターの数字の中には、各地区の福祉保健センターでの相談も含まれている。そのときどきによって、数字の増減があるため、この数字を持って確実に減少しているとは言い切れない部分もある。

・保育園の相談件数は、何をもって数値とするのか難しい。日常の相談を件数として上げる先生と上げない先生がいる。

（事務局）保育園については、相談記録というものがあり、その枚数を件数化している。

・体験入園のときに、お母さん方が先生に相談される姿はよく見かける。

（事務局）そういったときの相談件数も含まれている。

・資料 1-2 p.4 のところで、保育園での食に関する教育はあるが、幼稚園での食に関する教育の数字もあると良い。

・資料 1-2 p.4 のところで、ベビーシートと授乳室の整備状況はあるが、３人乗り自転車の貸出し状況の数字もあると良い。

⑵ 子ども・子育て支援事業に係る平成２８年度予算について

【事務局説明の後、主な委員の質疑・意見及び事務局回答・説明】

・特になし

⑶ 平成２８年度放課後児童クラブの申込状況について

【事務局説明の後、主な委員の質疑・意見及び事務局回答・説明】

・中部については、多くの待機児童が出ているが、対策は考えているか？

（事務局）年度の途中からの増設は難しいが、教育委員会や学校と協議しながら、学校内に新たなスペースの確保を考えていきたい。また、年度途中で退所される方もいるので、空きが出たら待機の方を順番に案内していきたい。

・低学年と高学年の兄弟がいる場合、低学年の子だけ入れるというケースがあるなら、対応を考えていただかないと。

・放課後児童クラブの拡充などについては、豊川市だけでなく、国の制度として対応を考えないといけない。

・もともとのニーズ量は、かなり補正がかかっている。実際の利用希望者数は 1,397 人だが、潜在的な希望者数はもっといるはずだ。

⑷ 豊川市保育所整備計画・豊川市放課後児童クラブ整備方針について

【事務局説明の後、主な委員の質疑・意見及び事務局回答・説明】

・保育所整備計画について、駐車場はまだ検討中のことであったが、利用者とし

ては多少遠くても構わないので、駐車場の確保はぜひお願いしたい。

（事務局）駐車場の確保問題については、市内各所の園にある。駐車場問題と騒音問題は少しずつ解決していきたい。

・放課後児童クラブ整備方針について、基本とする整備の方向性は、これが達成できれば、条例上の基準は全て解消するということで良いか。

（事務局）６年生まで利用者が拡大したことにより、まだまだ読めない部分はあるが、ある程度方向性を出さないと何も進まないので、方針を出した。

・面積の確保は本当に大事だと考える。４～６年生は体格も大きいので、１～３年生と同居すると、安全確保上も絶対的に必要。また、支援員も認識を高くする必要がある。

（事務局）面積の確保と同時に、人材の確保と育成も大事と考えている。

・予算上は、平成 31 年度に向けて、もっと確保していくのか。

（事務局）学校内の部屋を貸していただけるかどうかで、必要な予算は大きく異なってくる。教育委員会や学校と協議を進めながら確保していきたい。

・児童クラブの拡充が大変であることはよく理解できる。学校の側としても、特別支援学級の増加などいろんな事情があり、どこで折り合いをつけていくかということになるが、十分な話し合いが必要である。

（事務局）セキュリティの問題や部屋のやりくりなど、いろんな事情がある。しっかり話し合いをしていきたい。

⑸ その他

（事務局より）・次年度の予定について、年４回、３ヶ月に１回程度を考えている。具体的な日程はまた調整のうえ、早めに連絡する。次年度は計画の見直しを考えており、議題として上げさせていただく。その他については、必要に応じて情報提供などをさせていただく。

・その他（委員の委嘱、個人番号等に関する事務連絡）